

# 令和4年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 議事録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和4年7月13日（水）午後2時～午後4時

場 所： 市役所金剛連絡所2階 ホール

出席者：

【委員】：14名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）

友田 研也、新里 恵美、溝口 俊則、吉村 明、野村 恭子、廣崎 祥子、

島岡 秀行、木全 剛司、占部 訓司、佐藤 笑美子、品田 忠司、森木 和幸

欠席者3名

小野 達也、山田 貴之、大山 美里

【事務局】：4名

[富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室]

塚本 隆之（室長）、松本 憲昌（室長代理）、竹川 智也（主査）、加茂 武（副主任）

【会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）】：6名

[株式会社ダン計画研究所] 上岡 文子（コンサルタント）

[特定非営利活動法人きんきうえぶ] 寺田 誠（コンサルタント）

[内閣府地方創生推進事務局] 木内、荒川、木全、庄野

開催形態： 公開（傍聴人：0名）

次 第： 1. 開会

2. 委員の紹介について

3. 会長・副会長の選出について

4. 案件

（1）金剛地区再生指針の進捗について（令和3年度）

（2）金剛地区再生指針の取組内容について（令和4年度）

5. その他

6. 閉会

議事録： 全文筆記

## 1. 開会

(事務局：塚本)

- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることの報告
- ・議事進行にかかる留意事項等の確認
- ・資料の確認

(事務局：塚本)

皆様大変お待たせいたしました。只今から、令和4年度第1回の富田林市金剛地区再生指針推進協議会の会議を開会させていただきます。皆様方には、何かとお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は、本日の議事案件に進むまでの間、司会を務めさせていただきます、産業まちづくり部金剛地区再生室の塚本と申します。よろしくお願いいたします。

本日は委員委嘱後、初めての協議会でございますので、会長、副会長をご選出いただくまでの間、事務局の方で会議を進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

早速ですけれども、議事に入ります前に、事務局の方からお知らせがございます。本協議会は、本市の会議の公開に関する指針により公開することになっておりますので、会議録作成のために録音させていただくことと、また今回、議事録作成の円滑・効率化ということで、システムを使って議事録を作る関係上、委員の皆様には、ご発言いただく際に、必ずマイクでご発言いただきますようお願いいたします。また、会議録につきましては、発言された方の氏名も含めまして、公表することにつきましても、ご了承いただきますようお願いいたします。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。まず、会議の次第。続きまして、資料1-1、協議会の名簿。続きまして、資料1-2、協議会の設置要綱。続きまして、資料の2、金剛地区再生指針の進捗状況について、A3の資料になります。続きまして、資料の3、金剛地区再生指針の取組予定について。資料ちょっと多くございます。全体では、①の各部会・プロジェクト等の取組という資料と、②といたしまして、市が進める取組、一式として準備してございます。また、追加の資料で、虹いろサロンこんごうのチラシ。また、金剛マルシェのチラシを準備しております。配布資料に抜け落ち等ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

## 2. 委員の紹介について

(事務局：塚本)

それでは早速なんですけれども、委員の皆様方を、資料1-1の名簿の順に沿いまして、ご紹介させていただきます。

まず、市民委員の友田委員でございます。

同じく、中井委員でございます。

同じく、新里委員でございます。

同じく、溝口委員でございます。

同じく、吉村委員でございます。

続きまして、大阪府立大学名誉教授で、LAまちづくり研究所、所長の増田委員でございます。

続きまして、富田林市民生委員児童委員協議会、主任児童委員部長の野村委員でございます。  
続きまして、特定非営利活動法人ふらっとスペース金剛、代表理事の廣崎委員でございます。  
続きまして、独立行政法人都市再生機構西日本支社大阪エリア経営部、団地マネージャーの島岡委員でございます。

続きまして、金剛銀座街商店会の木全委員でございます。

続きまして、金剛ショッピングモール店主会、会長の占部委員でございます。

続きまして、一般財団法人富田林市福祉公社、社会福祉士の佐藤委員でございます。

続きまして、大阪都市計画局拠点開発室、副理事の品田委員でございます。

続きまして、本市産業まちづくり部、部長の森木委員でございます。

なお、本日、桃山学院大学社会学部社会福祉学科、教授の小野委員、南海電気鉄道株式会社まち共創本部企画部課長の山田委員、社会福祉法人富田林市社会福祉協議会総務・事業推進課地域福祉係、副主任の大山委員におかれましては、本日ご欠席という連絡をいただいておりますので、ここでご報告をさせていただきます。

また、本日は委員の過半数のご出席をいただいておりますので、この協議会の設置要綱第5条第2項の規定に基づきまして、この協議会が成立していることをご報告申し上げます。

また、本日の報告事項に関連しまして、設置要綱の第5条第4項の規定に基づく関係者をご紹介します。

本市におきまして、金剛地区の再生・活性化の検討に際しまして、内閣府よりハンズオン支援を受けておりまして、本日はオブザーバーといたしまして、内閣府地方創生推進事務局より、木内様、荒川様、木全様、庄野様の4名の方にオンラインでご出席いただいております。

続きまして、株式会社ダン計画研究所の上岡様でございます。

続きまして、NPO法人きんきうえぶの寺田様でございます。

では最後に、事務局の紹介をさせていただきます。

産業まちづくり部金剛地区再生室、室長代理の松本でございます。

同じく、主査の竹川でございます。

同じく、副主任の加茂でございます。

改めまして、私は金剛地区再生室の室長の塚本と申します。よろしくお願いたします。

### 3. 会長、副会長の選出について

(事務局：塚本)

それでは続きまして、会長、副会長の選出に進ませていただきます。

本審議会の要綱第4条第1項では、委員の互選により定めとなっておりますが、皆様、会長の選出に関しまして、いかがでございましょうか。

(友田委員)

事務局一任でどうでしょうか。

(溝口委員)

これまでと同じで良いのではないのでしょうか。

(事務局：塚本)

はい、事務局一任のお声をいただきまして、ありがとうございます。あと溝口委員のご意見も踏まえましてですね、会長には、本協議会の会長を当初からお願いしております、増田委員。また、副会長につきましては、中井委員にご就任いただきたいと思いますけれども、皆様いかがでございましょうか。

(全委員)

異議なし。

(事務局：塚本)

ありがとうございます。それでは、会長は増田委員、副会長は中井委員ということでよろしくお願いいたします。早速ですけれども、増田委員、中井委員のお二人には、恐れ入りますが席の移動をお願いいたします。

ありがとうございます。それでは、正副会長を代表いたしまして、増田会長にご就任の挨拶を賜りたいと思います。よろしく申し上げます。

(増田会長)

前回に引き続いて、会長を拝命いたしました増田でございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。この活動もですね、コロナ禍の中で色々な行動制限を受けてますけれども、順調に皆さん方の活動が定着すると同時に、広がりを持ちつつあるというふうなことです。この流れをさらに活性化していくと、最終的には、金剛地区の再生に繋がっていくというふうな形を目標に、この会議を進めて参りたいと思ひますので、ご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(事務局：塚本)

ありがとうございました。それでは、これより議事の方を進めさせていただきます。この後の議事進行につきましては、要綱に基づきまして、会長が行うこととなっておりますので、増田会長、議事進行の方よろしくお願ひいたします。

#### 4. 議事

(増田会長)

はい、それでは改めまして、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、次第の中で案件を見ていただきますと、1番は金剛地区再生指針の進捗、令和3年度。2番は、金剛地区再生指針の取組予定、令和4年度。その中には、各部会・プロジェクト等の取組、それと市が進める取組に分かれております。その他を含めて次第にございますので、忌憚のない意見交換とともに、議事の進行

にご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、まず最初に、金剛地区再生指針の進捗について、令和3年度ですけれども、かなりメンバーの入替もごひますので、再生指針そのものについての全体像も含め、簡潔にご報告をいただければと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(1) 金剛地区再生指針の進捗について (令和3年度)

(事務局：加茂)

・資料2について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。令和3年度の再生指針の進捗についてということで、ご説明をいただきました。何か質問ごひますでしょうか、いかがでしょうか。はい。

(新里委員)

はい。すひません。私は初めてということで、もし皆さんご承知の点でしたら申し訳ごひません。今、令和3年度の実績ということで色々報告をしていただいたんですけども、これに対して、評価、実際やられたことに対してどうだったのかというところは、しっかり出てるんでしょうか。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか。進捗管理ですね。事後評価といひますか、市としてはどんな仕組みでやっているかということかと思ひますけど。はいどうぞ。

(事務局：塚本)

今回、この金剛地区再生指針を平成29年3月に策定いたしまして、取組の方向性毎にですね、例えば何か指標を設定しているということには行っていない状況にごひます。評価の仕組みといたしましては、この推進協議会で色々な取組をご報告させていただきまして、そこで色々な角度からご意見をいただきながら、それを施策の方に反映していくと、そのような考えで進めているところでごひます。以上です。

(増田会長)

よろしいでしょうか。

(新里委員)

すひません、とてもぬるいなっていう気がするんです。実際にこれだけの活動をしていて、地域住民に、金剛地区の皆さんに、どれだけ浸透してるのかなっていうようなところは、やっぱり今後計画を立てる上では必要なことじゃないかなっていうふうには感じます。

(増田会長)

極力住民の方々に、普及啓発と言いますか、情報公開と言いますか、情報発信と言いますか、そういうところに取り組んでいただきたいというふうなご指摘かと思えます。ありがとうございます。他いかがでしょうか、よろしいでしょうか。それでは、振り返りのところはこれぐらいにして、今年度の事業ですね、これについて意見交換を進めたいと思いますので、案件の2、金剛地区再生指針の取組予定について、まず、各部会・プロジェクト等の取組についてご報告をいただいて、質疑応答の時間を取りたいと思います。

その後、市が進める取組についてご報告をいただいて、ここでも質疑応答を進めて参りたいと思いますので、まず、今スライドに映っています、①の1から5についてご報告をいただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

(2) 金剛地区再生指針の取組予定について (令和4年度)

①部会・プロジェクト等の取組について

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

・ 1. 金剛地区まちづくり会議及び運営会議のあり方・役割、2. わっくカフェ、4. 金剛マルシェプロジェクトについて説明。

(株式会社ダン計画研究所：上岡)

・ 3. ∞KON ROOMについて説明。

(友田委員)

・ 5. 寺池公園等を活かしたまちづくりの会について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。何点かの懸案事項が大分解決されて、推進力が出て来ているなという感じですが、順次、1番から少し意見交換をしたいと思えます。まちづくり会議及び運営会議のあり方・役割について、これも少し再整理をいただいていて、整理ができたという状況かと思えますけど。これに関して何かご意見とかご質問ございますでしょうか、いかがでしょう。

ひょっとしたらこの会議会議という名前が二つややこしかったら、極端なことを言うと、一つは事務局でも良いかもしれないですけどね。まちづくり会議を運営する、或いはまちづくり会議の内容、日程を決めるということであれば、まさに事務局機能だと思うので、どちらも会議会議ではない方が良いかもしれないので、それはまた検討いただければと思います。

(事務局：加茂)

ありがとうございます。運営会議のメンバーと対話しながら検討させていただきます。

(友田委員)

綺麗に整理できていると思っているんです。ただ一つだけ気になったのがね、一番最後の市の役割のところ、今の金剛地区まちづくり会議から色々な活動というのが起こっているんですけども、

この初動期の部分について支援するっていうことを書かれてますけども、確かにそうなんですけども、やはりその初動期ってね、割と長いと思います。

寺池公園においても、2、3年とか、そんなもので簡単に済むものじゃなくて、これをやろうと思ったらやっぱり5年ぐらいのスパンとか10年ぐらいのスパンを思っておかないといけないと思うので、ただ立ち上がったからとか、我々が独立した会議になったから、はい地元ですよということにはちょっとなかなかならないし、内容もまた発展させていかなければならないので、ここのお付き合いは割と長いように意識しておいていただきたいなというふうに思います。

(増田会長)

はい、よろしいでしょうか。

(事務局：加茂)

なかなか何年という、決まった期間で縛ることも難しいと思いますので、運営会議の皆さんと対話を続けながら、どれぐらいの期間であったり、どのような内容の支援が望ましいのか、検討していきたいと思います。ありがとうございます。

(増田会長)

ありがとうございます。はい。1番について、よろしいでしょうかね。それでは2番、居場所づくりの一つとして、わっくカフェというのをやっていますけれど。はい、新里委員どうぞ。

(新里委員)

居場所について、このわっくカフェ等、色々できてるんですけども、金剛再生として、どの程度まだ居場所を今後計画していくべきなのかとか、そういう考えはございますか。

(増田会長)

いかがでしょう。これは基本的に市が考えるという話よりも、ここで皆で考えるという話ですね。まだどんどん増やしていくような必要性があるかどうかと。はい、いかがでしょうか。

(事務局：塚本)

増田会長おっしゃる通り、今現状市としてですね、明確な数値目標であったりとか、例えばエリアごとに、例えば半径何メートルに1ヶ所とかいうような、目標は掲げてございません。ただ、今住民の方々の中で色々な活動が生まれてくる中で、やっぱり居場所が必要というようなことは出てきますので、そういったものが増えれば増えるほど、やはり良いのかなと思っておりますので、特段その上限とかを設ける予定はございませんので、そのように考えてございます。

(増田会長)

よろしいでしょうか。

(新里委員)

それについてね、居場所についての助成とか、そういうことを市は考えておられますか。

(増田会長)

はい、事務局いかがでしょう。

(事務局：塚本)

現時点では、予算措置等に関しては予定はございません。はい、以上です。

(増田会長)

はい、中井委員どうぞ。

(中井副会長)

居場所づくりの件につきましてですけれども、今私の方でわっくカフェを運営させてもらってますけれども、実はそれともう1個、虹いろサロンでしたかね。あれが先月から開設され、KON ROOMも同じようなことをやられてて、3つ事業としては動いていると。

ただ、時間的な話でいくと、わっくカフェが1番たぶん長くて、あとはみんな昼間の時間帯だけとなっていて、1番たぶん子どもたちもほしいであろう放課後の時間帯っていうのは、今やっているとところはないんですね。そういう意味では、今居場所が足りないと言えば足りないんです。

そうすると、今の居場所をもう少し広げるか、そういう活動をしてその時間帯をもう少し広範囲にできるような運営を今後やっていけたらなど。それは我々もしないといけないと思うんですけども、それ以外に新たに作る団体も、そういう方向で考えてもらったらいいかなというふうに思います。

(増田会長)

もう一つは、この推進協議会なり、まちづくり会議から打ち出された活動ではないですけども、廣崎委員の方で、やはり子育て層の方々の居場所づくりというものをずっと取り組んでこられてますよね。だからそれについての説明なり、或いはわっくカフェについてでも良いですけども、何かご意見、補足ございますか、いかがですか。

(廣崎委員)

はい、子育て支援活動として地域子育て支援拠点事業というのを、ずっとやっているんですけども、私たちがやっているのは子育て支援というイメージだから、どうしても子連れじゃないと行きづらい場所っていうふうになってしまっているのは私たちの課題で、でも、コロナ前なんですけれども、異年齢交流ということを目的として、中学生が放課後とかに遊びに来てくれたり、あとは地域の方がちょっと立ち寄ってくださったりっていうことはあったんですけど、なかなかそれが継続的に続いていかないっていうのは課題として思っています。

わっくカフェも、私もオーナーとして入ることはあるんですけども、覗いている人を逃がさな



いっていうことはすごく言っています。やっぱり何だろうって気にしながら歩いてる人は、そのまま声を掛けないと去っていくんですね。それで、私がすごく驚いたのが、若い人に声を掛けられて嬉しかったと。別にそんな私、二十歳とかじゃないんでね、そこまで若くないんですけども、そこそこ初老の方が、女性ですけどね、男性をナンパしたわけではないんですけども、女性の方が誰かに声を掛けられて嬉しかったっていうふうなことはおっしゃっていて、やっぱり居場所っていうのは、その場所を構えるだけではなく、そこに居る人っていうのがすごく重要だっていうのは、わっくカフェをやっていて非常に思うところです。

(増田会長)

ありがとうございます。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

居場所づくりに関連して、先ほど会長おっしゃったように、新里さんが、市の方で増やしていくことを考えているのかっていうことに対して、まさしく、この協議会の中で、必要性に応じて、その状況を見ながら新たに出来上がっていくと。事例としては、このわっくカフェであり、KON ROOMであり、古くは、ふらっとスペース金剛、それと今度、虹いろサロン、このように、この協議会の中で色々試行錯誤をして、こういうのを作ろうこういうのを作ろうということで新たにでき上がってきたもの。それは、それ以前に、非常に多くの場所で居場所が提供されてきたっていうのは、ご存知の通りであります。

それで、今度ですね、話を金剛団地に変えて申し訳ないですけど、今まで、すべての地域に居場所、いわゆるサロンというものは作ってきたんです。今度新たに、金剛団地の400棟台に約180戸あるんですが、この寺池台五丁目地域に関して、寺池公園の三角公園の部分で、サロンを寺池台5丁目自治会がされておられると。

今度新たにですね、金剛団地自治会、それから寺池台五丁目自治会、それと伏山台小学校区福祉委員会。この3者をもってですね、新たにカフェを作っていこうと。これは金剛団地からすれば、400棟台という非常に離れていて、今まで団地の中でのサロンにあまり恩恵を受けていなかった。それを今度、400棟台のUR集会所、ここを利用してですね、月1回程度のカフェを開いていくというのが具体化されつつあります。

そして、URにもご協力をいただいて、ほぼURとの協議も終わって、今年中には、そのカフェを立ち上げていくということで、新たに1つカフェが加わるということで、これからも色々な場面で、こういうものを立ち上げていこうというのが、委員の中から色々意見が出たら、それはまた出来上がっていけば、この協議会の中の1つの成果ではないかなと思っております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。たぶん居場所づくりという形でもう少し情報収集をする必要性があるんだろうと思いますね。その中で、例えばどの校区は非常に多いけど、どの校区は少ないとかですね、少し全体が俯瞰できるようなデータ収集も、少し市の方にもお願いしときたいなと思います。はい、吉村委員どうぞ、手を上げていらっしゃるので。

(吉村委員)

今、400棟の話が出ましたので、僕はこれ、金剛地域、特にこの辺りですね、中心にまちづくりっていうことで参加しているんですが、高辺台一丁目なので、あちらから見ると、結構離れているんです。だから高辺台一丁目の方々からすれば、こちらでやっていることは、何か遠くでやっているというのは、もうどうしてもこれは避けることができない見方で。今400棟とありましたが、高辺台500棟というものがあるんですね。そこら辺は僕らの地域ですけども、ほとんど拠点的なものとか居場所というものがなくて、ちょっと見捨てられてる、こういう言い方はいけないですけど、ちょっと見捨てられてる場所だなと。拠点がものすごく作りにくい場所だなと。場所で考えるとすれば、例えば、金剛公民館、あれは微妙な場所になってまして、こちらから見ると端っこなんですね。金剛東の方から見たらまだ近いですね。だから、ちょっとそこら辺も含めて考えていかないといけないなど、この間特に思っていますね。今400棟のお話が出たので、そういう部分もこれから含めて。金剛はここが中心だと思います。この中央公園の辺りとかね。やっぱりここも含めて、向こうの方も考えていかないといけないなど、今すごく思っているところです。

(増田会長)

全体を俯瞰する必要性もあろうかと思しますので、ありがとうございます。そういう面で、URでソーシャルワーカーなんかを配置されているということは、金剛の中ではあるんでしょうか。

(島岡委員)

ソーシャルワーカーというのは、ちょっと配置はしてないんですけども、こちらの資料2の一番上に書いてございます、生活支援アドバイザーというのは、隣の管理サービス事務所の方に1名配置はさせていただいております。

(増田会長)

はい。一応居場所とかに関わるようなやつを俯瞰できるように、一度整理すると、薄いところと濃いところがあるかもしれないので、その辺の整理を一度したらいいかなというふうなことを思います。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

先ほどの説明の中に、金剛地区、金剛団地、基本的にもう既に居場所のサロンというのは出来上がっていると。今吉村委員の言われた500棟に対しては、高辺台小学校区福祉委員会がサロンを小学校の空き教室でやっていると。久野喜台一丁目も含めて、久野喜台の社会福祉協議会がサロンを開いている。そういう事例もありますので、高辺台一丁目からすれば、高辺台小学校、割と近いところなので、そこを利用されるというのも一つの手だと。

(増田会長)

あと少し泉北ニュータウンの例なんですけど。ここは3校区ですね。泉北ニュータウンは16校区ありますから規模は違いますけれども、市が報告しているのは、不登校生は小中学校で数十名と

言ってるんですね。ところが実際活動されている方々は700名ぐらいいらっしゃると言っているんですね。そういう面でいうと、泉北ニュータウンも、ニュータウン内にはフリースクールはないんですね。ニュータウンの外には、結構フリースクールがちょこちょこ泉北高速沿いで出来つつあるんですけども、そういう面で言うと、次の活動の目標みたいな話は、ひよっとしたらその不登校生、小・中学生、彼らの日中の居場所づくりみたいなやつは、ひよっとしたら必要になってくるかもしれません。規模からいうと、1クラスぐらいはやっぱりこのニュータウンの中にいらっしゃるのではないかなと思うんです。そんなことを、ちょっと目についてるかどうかなんですけど、その問題がやっぱり皆さんの意識に上ってくれば、そういうことも必要かと思います。泉北ニュータウンは、今ちょうど民間の活動として、そういう子どものフリースクールみたいなやつを設立していきたいというような、そんな動きがございます。参考までに。他はよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

(友田委員)

色々な取組を聞かせてもらったんですけども、今から私たちがやろうとしているプレーパークにつきましてはね、プレーパークリーダーっていうのを地域で育てていくっていう形になるんですよ。それを指導してくれる人はいるんですけども、このプレーパークリーダーは大学生であったり、それぐらいの方々が色々学び、それを自立してできるようにしていきましょうという形で、今KON ROOMとか見ていましたら、大学との連携みたいなものもしていますのでね、そういった方々であったり、あとボーイスカウトの方々であったり、ちょっと我々ネットワークも持っていないので、そういうところをご存知であれば、そういったことも教えてもらいながら、このプレーパークリーダー探しみたいなものを、またご相談させてもらいたいと思ってますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。続きまして、大分関連して議論をされてますけど、KON ROOMの活動に関して、何かお気づきの点ございますでしょうか。私はちょっと先ほどの話に関連するんですけど、やはり子どもの不登校生なんかの居場所と、それと子育て層なんかの方々の相談を受けるソーシャルワーカー的な人とか、児童相談みたいな仕組みというのは組み込まれてるんですかね、その自習室とは。

(株式会社ダン計画研究所：上岡)

現状ではですね、そういうお声も地域の方からいただいたりはするんですけども、やっていないという状況です。何故できないかという、我々もどこにフリースクールを求めている方がいるのかっていうのがキャッチできないんですよ。そういうニーズがあればお答えしたいと思うんですけども、やっぱりそういうフリースクールや不登校児の支援をされている団体さんと、KON ROOMで組んで、何かしらの居場所を作っていくっていうことが一番あり方としては良いのかなと思っていたりします。

(増田会長)

少し教育委員会の方と情報収集していただいて、実際どれぐらい今いらっしゃるのかで、やっぱり誰1人として取り残さないということから言うと、やっぱり非常に重要な、次世代の育成という意味で必要ですから、また機会を見つけて極力切り込んでいけるように、よろしくお願ひしたいなと。

(株式会社ダン計画研究所：上岡)

分かりました。

(増田会長)

他いかがでしょう。新里委員、どうぞ。

(新里委員)

KON ROOMの機能の一つとして、青少年の学習っていうのをフォローされてると思うんですね。ただ、席数がかなり少ないということで、あふれた子は結局帰るということになるんですね。で、今後やっぱり金剛再生を図るには、そういう子育て、子どもっていうところを手厚くしていくことを考えないと、人口の流出っていうのは、やっぱり止まらないんじゃないかなと思うので、8席ではね、やっぱりちょっと少ない。これに対しては、やっぱり市政としてバックアップしていただきたいなと思うんですけども。

例えば、私たち、すいません、ちょっと後の説明になるのかなと思ったんですが、虹いろサロンこんごうっていうものを、富田林市社会福祉協議会が、6月20日にオープンしました。このチラシ、お手元にあると思うんですけども、ここに関しては、まずけあばる金剛さんが、もともとあったURの場所なんですね。それで、そこの相談窓口が金剛連絡所に来ているということで、とてももったいない空き家になったなというところで、社会福祉協議会の方が、ここをみんなの居場所にどうかというところで作られました。どなたでもどうぞというもので作られたんですが、実はボランティアスタッフを募集しましたけども、やっぱり常設で、月曜日から金曜日まで運営をするというほどの人数は来なかったんですね。それで、月水金という形で、朝の10時から15時っていうところで運営をさせていただいてます。それで、実はその後っていうのが空くんですね。

私としては、できれば、そういう子のフォローとかできるのであれば、やってもらいたいなというふうにも思ったりもしてます。だから、また社会福祉協議会、あと市とやっぱり連携をとって、いかに子供たちの支援ができるかっていうことも、やっていったらどうなのかなと思います。

このついでに申し訳ありません。6月20日にオープンしまして、ボランティアスタッフは20何名ということで、シフトの方を組ませていただいて、上物は一応社協がバックアップしてくれています。運営の方は運営委員とボランティアスタッフの方で、ちょっとコーヒー一杯100円という協力金はいただくんですけども、その協力金で運営をしていこうということにしております。飲み物は浄水した水、ちょっと冷たい水ですけども、それはもう何杯飲んでもらってもいいというところで、学校帰りの子たちもワッと来て欲しいなという思いもありますし、ぜひこの場所をね、活用していただきたいなと思います。もっとしゃべりたいんですが、時間があれば、この辺で結構です。

(増田会長)

たぶん先ほど中井委員からも出てましたように、やはり皆の活動の中で、夕方の5時から7時、或いは夕方の4時から7時辺りはやっぱり抜け落ちるんですね。7時くらいから夕食を済まして何か会議しましょうとかはできるんですけど、やっぱり4時から7時、或いは5時から7時。たぶん虹いろサロンこんごうもそうですよね。そのあたりを発掘していくっていうのも一つの課題かもしれませんね。はい、ありがとうございます。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

KON ROOMに関してですけれど、これは良いのができたなと思うんですが、これの契約は3年間になってるんですよね。虹いろサロンができて、例えばKON ROOMであふれた若い人たちが虹いろサロンの方でお世話できると。いわゆるコラボができるっていうことであればより良いなど。ただ、3年間限定ということであれば、その先、ダンさん、行政、或いはURなど関連してくるんですけど、その辺りをどういうふうに、我々としては将来性を見通したら良いのか、どなたか教えていただけると。

(増田会長)

事務局いかがでしょうかね。はい。

(事務局：塚本)

すいません、難しい質問ありがとうございます。今現在、KON ROOMの場所につきましては、一旦、来年の2月の末までを開設期間として設定してございます。ただ、地域の方からは、やっぱり継続してやってほしいとかいうようなお声もいただいていたりとかするんですけども、やはり一つは場所の契約が今後も使えるかどうかという問題が1点と、あと当然開設に関して、市の方も予算をつけてございますので、その予算の方が獲得していけるのかというのが1点ございます。ただ、その点につきましては、今UR都市機構様の方と色々ご相談の方もしている最中でございますので、また明らかになって参りましたら、皆様にいずれの結果にしてもお知らせして参りたいというふうに考えております。

また、ちょっと関連してなんですけれども、後ほど説明いたしますが、金剛中央公園の方で、今回施設整備を検討しております。その中で子育て支援というのも機能の一つとして入れてございます。これはこれから、住民の方々から色々ご意見をお聞きしながら作っていくことになるんですけども、そういった中身におきまして、今日いただてるご意見なんかも含めまして、検討していければというふうに考えております。以上です。

(溝口委員)

ぜひ継続できるようにご協力、ご努力をお願いしたいと思います。

(増田会長)

先ほど友田委員からも出てましたように、やっぱりまちづくりっていうのは息の長い話ですから、

本当に初動期の3年だけという話じゃなしに、やはり末永く市も連携しながらというふうなことだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ちょっと時間押してますけれども、金剛マルシェ、それと寺池公園、この二つに関連して、何かございますでしょうか。特に金剛マルシェの実行委員会の立ち上げっていうのは、やっと目途が立って順調に進みつつあるというニュアンスなんですけれども、木全委員、何か補足ございますでしょうか。

(木全委員)

はい、ありがとうございます。今までね、ちょっとふわっとした感じでずっと行われてたんですけど、ここに来て、ちょっと実行委員会っていうのを立ち上げて、きちっとした形でやっていこうという話で、月1回ずつ会議をして、8月を目途に発足できるかなという予定となっております。それで、実行委員会の役員はね、ある程度決まってきたんですけど、やはり協力、やっぱり人が必要になってきますので、これからどンドン人を増やして行って、より活性化できたらなというふうにも考えておまして、この中にいらっしゃるメンバーの方も入っていただけたら、本当にありがたいことではあるんです。

もう一つなんですけど、今さっきわっくカフェさんの話も出ましたけれども、今まで野菜がメインやったんですけど、わっくカフェさんがカレー食堂をやっておられるわけですね。これ非常に良くて、お子さんがたくさんいらしゃったり、あとそれを買いに来るお母様方ですね、夕飯になるんでしょうね、きっと。非常にこれで賑わっておまして、今までは本当に野菜を買いに来る方と、あと昼間どうしても暑い時期、寒い時期っていうのは人が来なかったんですけど、やはり人の流れっていうのが結構時間長く、色々な世代の方が滞留されて、そして今回初めてですけども、モルックをやっていただいて、たくさんのお客さんが来てくださって、非常にこう、マルシェ自体のボリュームが増えてきたなという感じなので、これからどンドンこれを加速してやっていけたらなと思っております。また皆さんに色々なお知恵をいただけたらなというふうにも考えております。

(増田会長)

はい、わかりました。たぶん、この推進協議会とかまちづくりの役割、行政はどちらかというところ、やっぱり縦で動いてますけれども、その横の繋ぎみたいなやつがこの推進協議会の役割やとか、まちづくり会議の役割ですから、関連するやつは極力協力しながら、皆で盛り上がっていくというように考えていただければと思ひますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、寺池公園に関していかがでしょう。これはやっぱり一つは、寺池公園、こういうふうな活動が進んでくると、屋外活動というのはトイレがないと2時間しかできないんですね。午前中2時間とか午後2時間、朝の10時から14時ぐらいまで活動しようと思うと、やっぱりどうしてもトイレが要るんですね。そういうこともあって、ある一定、ハードとソフトというのは裏表一体で、市が行うハード整備と、市民が活動するソフトの取組。これは両輪なので、その辺りを市の方でも少し、活動を支えるためのインフラって何が必要なのかみたいな議論も、市の内部で少し検討していただければなというふうなことを思ひます。今日言って明日という話ではないですけども。他いかがでしょうか。はい、森木委員どうぞ。

(森木委員)

寺池公園の先生のトイレの話なんですけれども、一応トイレを作るという話もあったんですけども、地域住民の方が非常に難色を示されたという経過もございます。

(増田会長)

なるほど。たぶん活動が目に見えてくると、地域の方々も、迷惑施設ではなくて、やっぱり活動を支える施設という形で理解が進むのかなと思いますので、その辺の動きなんかを見ていただければと思いますけどね。はい、友田委員どうぞ。

(友田委員)

確かにこういったことをだんだん活動していくと、どうしても最低限必要なものっていうのがちょっと見えてくるんですよ。やはり例えば、先ほどの里山のところで活動しようとしても、あそこには水が来てないんですよ。すると、皆さんが遊んだ後に手も洗えないみたいな状態になるので、とにかく仮設でもいいので水は引いてほしいなっていうのがあるし。草なんかを刈って人が出入りしやすいようになると、やっぱり釣り人や子どもたちが柵を越えて入っていたりする。すると、それは今度水利組合さんの方が、安全確保のために良くないですよっていうような話があるので、やはり綺麗にはするけれども、その辺の安全対策をどうするのかっていうのは、地域だけでは考えられないので、そういったことは水利組合であったり市であったり我々も一緒に考えて、そこもきっちりやっていくというようなことは一緒に進めていただきたいなど。これら全部セットになってくるのでね、やっぱり最低限のインフラと安全確保と、そして我々の活動、そういったものを一緒に進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。第1番目の議題、これぐらいの意見交換でよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、市が進める取組ということで、4点ほど挙がっておりますけれども、ご説明いただいて、また意見交換をしたいと思います。よろしくお願いします。

## ②市が進める取組について

(事務局：加茂)

・ 1. Re：KONGO～まちをデザインするプロジェクト～、2. スマートシティプロジェクトについて説明。

(事務局：松本)

・ 3. 金剛中央公園・多機能複合施設等整備基本計画について説明。

(事務局：竹川)

・ 4. 金剛地区エリアブランディング公民連携事業について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。只今、Re : KONGOからエリアブランディングの公民連携事業までご説明をいただきましたけれども、どこからでも結構です。時間の関係もありますので、この1から4の中で、何かお気づきの点ございますでしょうか、いかがでしょう、はい。

(島岡委員)

すいません、URから一点ご報告なんですけれども、今しがた富田林市さんの方からご説明がございました、金剛地区の施設等再整備の基本構想のところ、ピュア金剛跡につきましては、解体に向けて進んでるということでご説明がございましたが、スケジュール的に申し上げますと、今年度ですね、解体工事の方に着手する予定になっております。ただ、これから色々と準備ございますので、今年度と言いつつも、たぶん後半の方になるのかなとは思っております。跡地につきましては、解体も考慮しながらですね、こちらの基本構想に基づきまして、富田林市と検討していきたいというふうに思っております。暫定的な活用なんかもあるのかなとも思っておりますので、ちょっと幅広で、模索をしていきたいなと考えているところでございます。はい。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。他何かございますでしょうか、いかがでしょう。はい、新里委員どうぞ。

(新里委員)

キッチンカーが撤退しましたけども、今後、キッチンカーの予定っていうのはもうないのでしょうか。

(事務局：塚本)

昨年末から実施しておりましたキッチンカーにつきましては、場所であったりとか季節柄の問題もあったかもしれないですが、やはり出店される事業者の目線でいくと、いわゆる採算ベースでいくと出店できる状況ではなかったというふうにお聞きをしております。このスマートシティのプロジェクト自体はまだ終わっておりませんので、このキッチンカーも一つのツールではあるっていうふうに考えているんですけれども、現時点で具体的な展開はいつどこでというものはないんですけれども、幅広い可能性の検討の中で、コミュニティ作りみたいところと絡めてできないかみたいなことは、引き続き検討したいなというふうに考えております。以上です。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、木全委員どうぞ。

(木全委員)

すいません。URさんにちょっと質問なんですけど、ピュア金剛跡、今年度に解体とおっしゃいましたけど、これに関してですけど、この今年度からスタートするというのは、今分かったんです



けど、いつに終わるとか、あと、我々商店街であったり、206棟207棟と、近隣にお住まいの方とかへの説明とか、どういった工事内容、あと通行できるところ、できないところっていう、こういった説明というのは、お考えであるのでしょうか。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか。

(島岡委員)

ちょっと工期の終わりにつきましては、まだちょっと、工事発注もできておりませんので、確定できてないんですけども、ご質問のあった件につきましても、やはり事前にご説明するように段取りをつけたいと思っておりますので、ご心配なくということでございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょう。吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

どう発言したら良いのか、ちょっと分かりづらいところがあるんですが、高辺台の中で色々意見を聞くんです。この間若い人とかも話したし、ご高齢の方とも話して、金剛をどう見てるのかなっていうことに問題意識があったのでね。やっぱり高齢の方にとっては非常に遠いので、あまりあちらでやってることは関係ない、関係ないという言い方は申し訳ないのですが、あまり関心が薄い。若い方、特に最近高辺台のところでは新しい家が建ってきて、子どもがよく遊んでいるのを何時になく見るようになりましてね。そういう方々がやっぱり、子どもを遊ばせる場所、或いは交流する場所、非常に求められてるなというのはありまして、どういうものが欲しいですかって、やっぱり中央公園の辺りに子どもが集えるようなものを非常に求められてると。例えばフィールドアスレチック的なものとかも含めてね。何が言いたいかという、狭山にある、狭山遊園のあった場所が、何か子どもが集まれる施設みたいな、ああいうものが非常に求められていて、遠くないですかって聞いたら、若い人は遠くないですという、いわゆる高齢者にとっては非常に遠いというね。金剛はかなり違いがあるので、そこのところはやっぱり丁寧に考えていかないといけないっていうのは、すごく思ったところです。

それと今のこの金剛地区エリアブランディング公民連携事業ということで、覚書まであっていうことで、かなり進めていくのかなと思うところですが、これは以前から僕も言っているとおり、思っていることは、先ほどからも学生の居場所の問題とか、それから自習場所が今狭いとか、でも求められてるというのが非常に出てきますので、そういう色々なことをやっていくときに、イベントとかをやって社会実験をやるんですけども、もっと深く文化面、教育面のあり方というのを深く考えていかないと、本当に将来的に生きてといいますかね、市民が求めるものになっていくかどうかって、非常に難しい問題があると思いますので、この文化、教育、このね、生活に根づいた部分ですね、ここを十分やっぱり考えて、或いは議論して、意見要求を聞いて、やっていくことが非常に大事ななというように思いますので、とにかく早くやってしまえばいいということじゃないとい

うことでね。ちょっと言っておきたいなど。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。たぶん、これからの中央公園を中心にした住民ヒアリングとかいうところは、地域的なばらつきもきっちり見て、ヒアリングをしていただきたいという話ですし、深く、やっぱりとらえて欲しいという、その辺の視点は重要な提案ですので、よろしく願いしたいと思います。はい、友田委員どうぞ。

(友田委員)

よく似た意見なんですけど、中央公園の計画にあたってね、やはり割と今、施設の内容とかそういうものとか中心に考えてますけども、やっぱり公園と一体的にどういうふうにするのかとか、それとかね、地域課題に対して、今子どもがもっと遊べる場所とか言われたけども、そういう場所にしようとする、ものすごくそこにはデザインの力入れていかないといけないんですよ。例えば、にしこおり公園は、子どもが遊びながらちゃんと親御さんが遠くから見れるような形とか、そういう、この年齢はどういう遊具が必要で、この年齢にはこれぐらいのものを用意するとか、きっちり作り込んでるので、実は。今回のところについても、どういう課題があって、高齢者に向けてはこう、そして子供に向けてはこう、一般の方々についてはこうとか、施設との関係をどういうふうにするのか、日照の関係をどういうふうにするのかとか、広場と施設の関係はどうあるべきかとか、今言ってたすべり台というのは空間的に配置できるのかどうかとか、アクセスはどうするんだとか、そういうところはものすごく緻密に考えていただきたいな、というのが一つ。

それとね、ワークショップってされてますけども、全然何の要素もなしにワークショップをすると、今の公園の動きってというのがどうなってるのかっていうのは、全然ご存知なく色々な意見を言うのと、そういったことを色々知った上で意見を言うのでは全然違うので、やっぱり最初のワークショップのときに、多少なりとも事例を紹介しながら、今の動きはこうで、こんな事例がありますよというのをインプットした上で、やっぱり意見交換しないと、昔のままの公園の扱いのままです。そういったアイデアが出たって、それはまた古くなってしまうので、やっぱりその情報をインプットするようなワークショップの仕方をお願いしたいなというふうに思います。

それとね、あと社会実験のことなんですけども、これについてもね、今吉村さんも言われてます、地域課題は何で、そのためにふれあい大通りをどういうふうに使いたいんだと。そのために、今回はこういう社会実験をしますとかね、そういった何か整理みたいなものがないと、何のための社会実験で、将来的にふれあい大通りをどうするんですかと。ここに置いているパークレットとかを置くようなふれあい大通りにするんですかっていう、そのための社会実験をするのか。例えば、車線を1車線減らすとか、そのためにするのかとか。それか、ピュア金剛跡地を今度は暫定的に空間整備して、そこにそういったキッチンカーとかを誘致するために、今すぐできないから、とりあえずふれあい大通りで実験して、そういったものの準備とかといった、仲間とかね、出店者とか、今から探しておくんですよとか、そのためにするんですよとか、ちゃんとね、目標とか課題解決だとか、そういったところをちょっと定めた上で、きっちり何を指して社会実験するんだってことを整理してほしいと思いますけどもね。何のためにするんだらうというところが、ちょっと曖昧になっ

てるんで、是非ともやってほしいんですけども、そこの目的がもう少しほしいなっていう。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。私の預かっていた予定時間は、3時45分ぐらいを目途にというようなこと言われたんですけど、かなり伸びております。この会場、或いは皆さん方にお許しをいただけるのであれば、少し延ばして4時15分を終了の目途にというような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。事務局良いでしょうか。

(事務局：加茂)

会場は問題ありません。

(増田会長)

はい、分かりました。もしも予定もございます方は、退出いただいても良いと思いますけれども、少し時間をいただきまして、もう少し意見をいただきたいなというふうに思います。占部委員、初めての参加で、商店会を代表して、ショッピングモールを代表してということですがけれども、何かこのブランディングであったりとか、中央公園を中心にした再生計画等について、何かご意見ございますでしょうか、いかがでしょう。

(占部委員)

はい。今日初めてで、ずっと一通り聞かしてもらって、勉強をまずさせてもらってる感じです。私は寺池台小学校出身で、寺池台の自然公園は、もうずっとあそこで遊んでたところで、昔あんな感じだったんですよね。だから元に戻ったなっていう感じで、すごく綺麗になってありがたいなと思いました。またちょっと、中央グラウンドの開発というか、あそこは変わるっていうことなんですかね。はい、またお願いしたいなと思ってます。

私はPTA会長をずっと6年ぐらいやってましてね、藤沢台の方でやってたんですけども、藤陽中学校と藤沢台小学校でやってました。それで、さっきちょっと子供さんの登校拒否の話があったじゃないですか。先生からもあったんですけど、本当にすごく思ってた、一番やっぱりPTA会長やってたら、親御さんから学校の先生のクレームが会長に電話が掛かってくるんですよ。すごい事件、いっぱい起こってるんですよ。一般市民の人は知らないんですけど、教育委員会にはかなり連絡が入ってると思います。ただ、教育委員会には言いたくない、学校の先生には直接言いたくないと言って、警察に行く人もいるし。色々なことがあって、それを相談するところがないっていう。それで、学校に行っていない子っていうさっきの話だったんですけども、めちゃくちゃいます。はい。たぶん皆さんが思っている10倍はいますし、1クラス、藤陽中学校なんかでも、1クラス以上いると思います。はい。時々来る人もいるので、よく分からないんですけど、そういう問題とかもたくさんありますし、これリアルの、これだけでいいのかなっていうのはすごく思ってたんです。数が全然足りないってすごく思ってた。もうちょっとどっちかって言ったら、家に閉じこもっている子たちは、外に出て会話しに行かないんですよ。親とも会話しないし、学校の先生がずっと訪問行ってくれてるんですけど、会話もしない。そんな中で、誰と会話するのかなと思ったら、バー

チャルの世界でやってまして。そんなところで、ウェブフリーとか、これからメタバースとか、色々なものあるじゃないですか。どちらかと言ったら、そういうところの地域、社会貢献も、そういうところもちょっと一つ入れていただいて、それで、そういうところに相談してる弁護士とか、ソーシャルワーカーとか、今さっきから色々出ている、皆さんのように活動されてる人たちが、ボランティアの人とか、相談に乗れるみたいなものがあると、意外と子供たちもなんかこう、相談する場所ができるのかなど。だからその、集まって来る、現場に集まる場所が必要っていうよりは、これからはその場所よりも、子どもたちがそこに集まるっていうよりは、そこにそのアドバイザーが集まってもらって、そこに入ってきてもらう、そういうような場所を作っていたら良いんじゃないかなって、ちょっとイメージ的に思ったんです。

(増田会長)

分かりました。ありがとうございます。その隣の佐藤委員も今日初めてでしたかね。もしも何かありましたら一言いただければと思います。

(佐藤委員)

はい。私どもは地域包括支援センターということで、高齢者の方の多様な課題に対して、総合的な相談受付をさせていただいております。富田林市の方からの色々な計画に基づきまして、それに対して、地域交流、地域づくりっていうことで、皆様と一緒に校区交流会議ということで、いわゆる高齢者の相談にとどまらず、地域づくりということで、地域の方に出て行きまして、健康づくりや色々な生活相談っていうことで、地域の方でイベントとかにも参加させていただいてる状況で、今日の色々な課題とか、皆様の取組を伺いまして、次はこういうところに参加したいかなみたいな目線で、見させていただいておりました。どうもありがとうございます。

(増田会長)

ありがとうございます。内閣府の皆さん、時間伸びてますけれど、最後にコメントをいただきたいと思いますので、ちょっとお待ちください。あと何名かコメントをいただいてから、そちらに振りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(内閣府地方創生推進事務局：荒川)

はい、承知しました。

(増田会長)

あと野村委員いかがでしょう。何か一言ございますでしょうか。

(野村委員)

自分たちの小学校区内の地域では、見守り活動をしたりして、なるべくたくさんの人と知り合うようにという活動はしているんですけども。その中でマルシェにも出店させていただいてるんですけども、やっぱり私たち、あそこに出向いて店を開くっていうことは、色々な荷物を運ばない

といけないし、机もお借りしないといけないし、やっぱり身一つで行って、できることではないので、その運搬にとっても苦勞しております。でもその辺のことも、いっぱい出店をしてくださいって声を掛けられるのは良いんですけども、皆さんやっぱりそこに来て、お店を開いてってということなので、やっぱりこのマルシェを開く話し合いをする中で、備品をどうしていくかとか、それをどこに置いておくとか、電源はどうするかとか、そういうところも考えられて、これから流動的ですけど、場所も変わっていくので、やっぱりその辺も考えていただいたら、参加もしやすいかなと思っております。

(増田会長)

ありがとうございます。たぶん寺池のパラソルカフェもそうで、毎回毎回テントと机と椅子を運んでというのは非常に大変で、やっぱり先ほど少し友田さんからも、活動を支えるための基盤としてのインフラ、最低限どんなことが要るのかみたいな話も、今ご指摘いただいたように、活動を支えるための備品と基盤みたいな話も、きっちりとやっぱり議論をしていかないと活動が継続しないと思いますので、ご指摘ありがとうございます。品田委員も初めてのご出席ということで、ご意見をいただきましたら。

(品田委員)

はい。私、この4月から大阪市と大阪府を統合した組織ということで、大阪府全体のまちづくりを考えるという都市計画局というところにいます。私の担当はニュータウン担当ということなので、本日は金剛地区ということですけども、この近隣であれば、狭山ニュータウンであるとか、あと南花台であるとか、泉北、千里、色々なニュータウンの検討をするという担当になっておまして、大体皆さん、問題になっているのは各ニュータウンとも共通することがあるので、今後、私の指導範囲の中で協力できたらなと思います。そして、隣の狭山ニュータウンですけども、ここは富田林市さんとは隣で、金剛駅で降りられるということですけども、金剛駅自体は大阪狭山市ということになりますし、先ほど、金剛中央公園であるとか、寺池公園であるとか、その辺の公園との繋がりで言うと、大阪狭山市さんの方では、狭山池を中心とした水と緑のネットワークというものもありますので、もう少し大きな視点で、こういう位置付けというか、こういうことに携われたな、というふうに考えております。ありがとうございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。あと、リモートで参加いただいております、内閣府地方創生推進事務局の木内さん、荒川さん、木全さん、庄野さん、誰かご代表でコメントいただけるんですかね、それとも4名共いただけるのでしょうか、いかがでしょう。

(内閣府地方創生推進事務局：荒川)

すいません、荒川と申します。それでは今からお話をさせていただければと思います。よろしくお願ひします。私共、内閣府地方創生推進事務局ではですね、令和2年度から、色々な自治体ですね、団地再生に取り組む自治体に対して、色々情報提供でしたりとか、伴走支援といった形で、

富田林市さんとは、令和2年度から関わりをさせていただいております。今年度ですね、ちょっと担当が変わりまして、すべて4人ですね、富田林市にまだちょっとお伺いできていないような状況で、なかなかちょっと状況を細かいところまで存じ上げないところで、大変恐縮ではございますけれども、本日は色々お話しいただきました中で、まちづくり会議でしたりとか、市民の方、地域で活動されている方でしたりとかと、市の方が共に連携しながら、色々活動されているっていうふうなところで、特に若い世代、小学生、中学生、高校生でしたりとか、またですね、39歳以下のところで集まっていらっしゃるような、Re:KONGOの取組でしたりとか、若い世代の方たちも地域に関われるじゃないですけども、居場所ができてくれば、そこでですね、皆さん地域で活動をされている方と接することによって、若い人たちが今後成長されて、数年後経ってから、今後地域の中で活動される担い手になるといったところで、若い世代の人たちをしっかりと、居場所を作りながら関わっていく。そういったところが今後のまちの発展でしたりとか、そういったところにも繋がっていくような良い機会になるっていうふうに、今日の感想のような話になってしまって恐縮ですけれども、今日お話を伺っていて、そういうふう感じたところでございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。ぜひ1度出張して、現場を見ていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

## 5. その他

(増田会長)

次に、その他で予定しておりました、虹いろサロンこんごうについてのご説明は、先ほどのものでよろしいでしょうか。

(新里委員)

はい、結構です。

(増田会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。一応私の方で預かっておりました議題は、大体終わったかと思うんですけども、事務局の方何かございますでしょうか。

## 6. 閉会

(事務局：松本)

本日は金剛地区の再生活活性化について、活発なご議論とともにアドバイスをいただき、誠にありがとうございました。また増田会長におかれましては、円滑に会議を進行していただき、誠にありがとうございました。議事の中でもお伝えさせていただきました通り、今年度は、昨年度に策定いたしました金剛地区施設等再整備基本構想を踏まえて、金剛中央公園における詳細機能等を整理い

たします、金剛中央公園・多機能複合施設等整備基本計画を策定して参ります。策定に際しましては、この協議会においても、委員の皆様方のご意見等を賜りたく、今年度は、回数を多く会議を開催させていただきたいと存じますので、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。それでは、本日の会議を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。